

OMM JAPAN 2023 KITAYATSUGATAKE

テクニカルディレクターレポート

テクニカルディレクター

小泉 成行

① テレイン選定の経緯

今回のエリアは 2013 年に駒出池キャンプ場を会場にしたロゲイニングイベントと 2017 年に野辺山で開催した OMM JAPAN の時の様子から OMM JAPAN 開催に適していると判断し、2020 年に開催地候補としてリストアップした。その後、会場やキャンプ場の利用、自治体の協力を得られることなどが確認でき、2023 年の開催地に決定、準備を進めることとなった。

OMM JAPAN にふさわしい美しくも険しい地形がありつつ適度なエスケープ経路を確保できる今回の範囲を競技エリアとして設定し、現地調査や試走を行いコースの準備を進めた。その過程で別荘地や外国放送受信所、林業作業地、危険な崖のあるエリア等を立入禁止区域に設定した。それらにより多少の迂回は必要になったが、コースの難易度や魅力を保つことはできた。

また地元の皆様のご理解ご協力があったおかげでイベント開催時のトラブルは起きなかった。あらためて株式会社シャトレゼリゾート八ヶ岳、駒出池キャンプ場（アドバンス株式会社）、小海町、佐久穂町、自治会、地主の皆様に御礼申し上げたい。

② ルール変更

今年はコロナウイルスの 5 類移行や過去に起きた問題を踏まえて以下のルール変更を行った。プログラムへの記載、動画での解説、SNS での広報などを行い、ルール変更に伴う大きな混乱は起きなかった。

コロナ特別ルールの変更

マスクを必須装備から外し、テントはペアに 1 つという本来のルールに統一した。

SI チップの紛失、破損の成績取り扱い

SI チップおよびリストバンドの耐久性の問題を考慮し、紛失、破損した場合は直ちに失格 (disq) とせず、コントロール通過証明ができれば完走、通過証明ができない場合はその状況に応じてミスパンチ (mp)、リタイア (ret) とした。ただしタイムは計測処理をした時間を基に計算することにした。

③ 運営上のトラブル

今回特筆すべき運営上のトラブルは起きなかった。もちろん問題が全くなかったわけではなく、スタートの手続き漏れ、フィニッシュ後の計測漏れなど細かなミスは発生した。今回起きたことを来年以降の運営チームへ引き続き、より円滑な運営が行われるようにしたい。

ウイニングタイムについては、特に **Straight E** クラスにおいて想定より短めのタイムとなり、結果的に完走率が大幅に上がることとなった。参加者のレベルが上がってきている嬉しい証拠とも言えるが、コースの難易度はイベントの魅力に欠かすことができない要素でもあるので、適切な難易度になるよう今後も調整したい。

④ 失格対応

SI の紛失・破損

前述の通りルールを変更したが、昨年 3 件発生した破損は、製造年が古い SI チップを新しいものに交換したこともあり発生しなかった。今後も定期的な機材更新が必要であろう。

紛失は 2 件発生した。うち針パンチを利用した通過証明が 1 件あり、完走として扱った。

装備チェックでの不備

必須装備の不携帯や紛失により 7 チームを失格とした。内訳はエマージェンシーシート 5 件、レインパンツ 1 件、地図 1 件。特にエマージェンシーシートの不携帯が多く、今後の周知が望まれる。

その他ルール違反による失格

ペア分離 (2 件)、緊急事態ではない電話連絡 (1 件) があり、イベント中に失格とした。

またイベント終了後に立入禁止の場所へ進入したという申告があり 2 チームを失格とした。

地図の紛失や事後の申告など正直な人たちが失格になってしまうのは心苦しい面もあるが、今後もルールの周知、より分かりやすいアナウンスや地図表現などを行い、参加者が楽しく安全に楽しめるように努力していきたい。

⑤ 10 回目の OMM JAPAN を終えて

10 回目の開催を終えることができた。1 回目から関わってきた者としてはやはり感慨深いものがある。

そして私がテクニカルディレクターになって 4 回目の OMM JAPAN。これまで地図の不備、ウイニングタイムの大幅な超過、コース迂回、クレームなどの問題を抑え込むことが出来なかったが、4 回目にしてようやく無事に終えることができたと実感し、記念すべき 10 回目の OMM JAPAN に華を添えることができたのではないかと思う。

これもひとえに 4 年間一緒に運営して下さったディレクターやチーフたち、当日の円滑な運用を支えて下さった運営スタッフのおかげである。特にテクニカルサブディレクターとして細かなフォローを行ってくれた坂野翔哉氏には大いに助けられた。今後も OMM に欠かすことのできないキーパーソンになっていくことを期待してやまない。

また、これまで OMM JAPAN にスタッフとして携わって下さった皆様の経験や反省の蓄積の上に今回の成功があることを忘れてはならない。

そして、参加者が無事に 2 日目のフィニッシュへ戻って来てくださることも、次に繋げるために欠かすことができない要因である。ルール設定の意味を理解し、同じ意識をもった仲間を増やしていただけることは、このイベントを継続する上で心強い車輪の 1 つになっている。

何より開催地の皆様のご協力なくしてこのイベントは成り立たない。毎回の振る舞いは参加者にも運営スタッフにも楽しみの 1 つとなっている。感謝の念に堪えない。

これまで 10 回の OMM JAPAN に関わって下さったすべての皆様に御礼申し上げたい。